



外来生物の問題点

一定の秩序が出来上がった環境に、他の生物種が入ってくると、その環境が変わり、在来種が姿を消すことがある。

外来種の内には、在来種を絶滅に追いやるものまであり、その影響の拡大が心配されている。

在来種との交雑で遺伝子汚染も起きており、元に戻せない状況もおこっている。

特定外来魚の問題

植食性、肉食性、雑食性の何れであっても在来生物を捕食し、在来環境を破壊する。

琵琶湖ではイチモンジタナゴが全滅し、宮城県の伊豆沼ではゼニタナゴが壊滅した。




チモンジタナゴ
ゼニタナゴ

餌の奪い合い、卵や稚魚を捕食して在来魚を壊滅させるケースも多発している。

政令で指定された特定外来生物(魚)

- オオクチバス
- コクチバス
- ブルーギル
- ストライプトバス
- ホワイトバス
- パイクパーチ
- ヨーロピアンパーチ
- チャネルキャットフィッシュ

- カダヤシ
- ノーザンパイク
- マスキーパイク
- ケツギョ
- コウライケツギョ



ブルーギル

オオクチバス



口が大きく魚食性が強い。水生昆虫、甲殻類もたべる。流速の緩やかなところに生息する。原産地北限はアメリカ五大湖周辺であり低水温にも強い。産卵期は水温が16℃に達する4~6月頃となる。

1925年米国カリフォルニア州産の種苗を、箱根芦ノ湖に放流した。さらに1972年にペンシルバニア州産とミネソタ州産を放流した。国内各地に拡散したオオクチバスは、これらの交雑種である。

1980年代バス釣りブームが起こり、大型人気でフロリダ産が持ち込まれ交雑が進んだ。

日本の淡水域に適合して爆発的な繁殖力で、水域生態系に破壊的な影響をあたえることとなった。

ブルーギル



小魚や水生昆虫、水生植物まで、あらゆる物を食う雑食性。環境に応じて食性を変える。流れの緩やかな河川下流域、湖沼に生息。

産卵期は6~7月で雄が産卵床を作りコロニー化する。卵も雄が保護する。

1960年に米国イリノイ州シェッド水族館から贈られた18尾に由来する。増殖して伊豆の一碧湖へ放流されたほか、食用魚生産の目的で全国に配布されたが、産業として軌道に乗らず放置され拡散した。オオクチバスの餌としてセットで人為的に密放流されたともいう。ブルーギルは背鰭にトゲがありバスにはあまり食べられず共存している。琵琶湖で繁殖した稚魚が鮎種苗に混ざっていた報告もある。繁殖力旺盛で一年で成魚となる。

湖沼に、ブルーギル、ブラックバスのうち、1種が入ると3種以上いた在来魚は1種以下に減る。

外来魚が2種以上入ると、在来魚は全滅する。

水生昆虫、動物性プランクトンも壊滅し、植物性プランクトンが異常増殖して緑色を呈する。

この水を田圃に入れても、水生生物は育たず、雑草だけが繁茂する。除草に農薬を多用することは、食の安全に不安を生じる。



特定外来魚駆除実験 捕獲生物	
捕獲生物名称	捕獲個体数
外来魚類	
ブルーギル	2
オオクチバス	8
アメリカザリガニ	28
ミシシッピミドリガメ	1
在来魚	
コイ	2
フナ	9
オイカワ	3
ナマス	3
シマドジョウ	3
スジシマドジョウ東海型	1
ゼゼラ	1
貝類	
イシガイ	23
ドブガイ	5
マツカサガイ	1
マシジミ	37
タニシ	15
その他の水生生物	
ヨオニヤンマヤゴ	2
マツモムシ	2
サナエトンボ	1
シオカラトンボ	1



木曾川・揖斐川の調査 (木曾川上流河川事務所)

平成21年7月実施

	調査地点数	オオクチバス	ブルーギル
		確認地点数	確認地点数
木曾川	46	10	8
揖斐川	15	0	0
根尾川	4	0	1
杭瀬川	5	1	1
牧田川	4	0	1

河川の駆除 湖沼の駆除は各地で実行されて、成果もあげているが、大河川では釣り大会以外に行われていない。

河川生息域の特徴 原生息地はミシシッピ川など大陸型の緩やかな流れであり、彼等にとって日本の大河は急流に相当する。本川に入った外来魚は通常の生息域を流入支川やワンドなどに求めた。

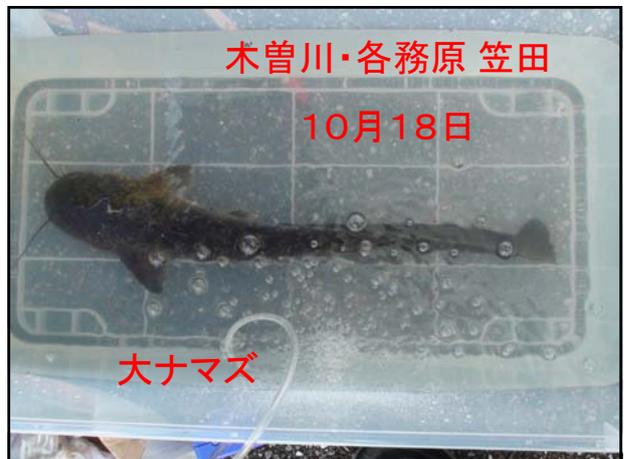
生息確認地 木曾三川内の生息確認地は、いずれも上記の流れが緩やかなところであった。

捕獲適地 これまで大河の駆除は広域であり無理と思われて放置されていた。小河川やワンドで重点捕獲したり、人口産卵床を敷設すれば駆除が可能である。

大河川での駆除実験を試みたいと、「河川環境管理財団」に申請して助成金を得たので、市民参加型のイベントを行うことし、木曾三川内5カ所で駆除実験を計画した。









捕獲調査実施後の説明状況



駆除大会参加者

分類	大垣 揖斐川水系 杭瀬川	一宮 木曾川 名鉄鉄橋	笠松 木曾川 長池	各務原 木曾川水系 笠田	岐阜 長良川水系 伊自良川	合計
市民 大人	10	35	62	38	27	172
子供	13	21	57	43	27	161
合計	23	56	119	81	54	333
官庁職員	17	28	19	23	32	119
フォーラム会員 ボランティア スタッフ	29	22	26	14	12	103
合計	69	106	164	118	98	555

釣具配布量
からの推定数

	大垣	一宮	笠松	各務原	岐阜	合計
釣具配布量 からの推定数	80	170	200	160	130	740

種別	種名	個体数	種別	種名	個体数
特定外来魚	オオクチバス	10	特定外来魚	ブルーギル	32
特定外来魚	ブルーギル	32	特定外来魚	カダヤシ	1
特定外来魚	カダヤシ	1	外来種	亀・ザリガニ	2
外来種	亀・ザリガニ	2	在来魚生息確認種	カニ	1
在来魚生息確認種	カニ	1	在来魚生息確認種	エビ	3
在来魚生息確認種	エビ	3	在来魚生息確認種	水棲昆虫	8
在来魚生息確認種	水棲昆虫	8	在来魚生息確認種	オタマジャクシ	1
在来魚生息確認種	オタマジャクシ	1	在来魚生息確認種	貝	2
在来魚生息確認種	貝	2			

捕獲特定外来魚

オオクチバス	10尾
ブルーギル	32尾
カダヤシ	1尾
外来種	
亀・ザリガニ	2種
在来魚生息確認種	32種
カニ	1種
エビ	3種
水棲昆虫	8種
オタマジャクシ	1種
貝	2種

まとめ
5会場選定条件として、安全、駐車場優先
としたため、
駆除場所として最適ではなかった。
笠松以外は流れがあり、外来魚生息数は
少ないと思われた。
仕掛け網上部の覆いと、おとり餌に
一考を要する。
投網、刺網も有効と思われた。

在来生物が非常に多く、生物多様性が保たれている
良い環境であることを再確認した。
市民の環境意識が高いことを確認できた。

木曾三川フォーラム

関市 中池

11月29日(日)

